

<研究ノート>

西夏語の「¹.jjj」+「¹dzjjj」における前部要素の機能について 西夏語「¹.jjj」+「¹dzjjj」结构中前綴機能初探

劉少華

Shaohua Liu

中国人民大学国学院 / 東京外国語大学 AA 研研究生

Renmin University of China, School of Chinese Classics / Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 西夏語の接頭辞には、初頭子音が同じで、主母音が異なる、対になるグループがある。一つは動作の方向、または完了を表し、一つは願望を表す。ところが、西夏語文献を詳細に読む時、接頭辞の機能がはっきりしない場合がある。例えば、本稿で検討する接頭辞「¹.jjj」+存在動詞「¹dzjjj」において、接頭辞を従来の願望を表すとする解釈では文意が通じない。筆者は西夏語文献をもとに、これが一種の慣用表現であったとみなし、前部要素の機能は動作の継続を示すものとする。時間表現と共に起る例文から、継続を表すことが明確となることを示す。

Abstract: The Tangut language has two sets of verb prefixes: the former expresses directional and perfective characteristic of an action; the latter expresses wishes. However, when reading the Tangut text, it is often difficult to determine the prefix function. This paper gives the example of “¹.jjj”+“¹dzjjj” and argues that they are used as a habitual expression that indicates the continuity of action.

キーワード: 西夏語, 継続, 接頭辞

Keywords: Tangut, continuous aspect, prefix

1. はじめに—西夏語と動詞句構造

西夏語¹は1038-1227年、中国西北部に存在した西夏国の言語で、言語系統はシナ・チベット語族チベット・ビルマ語派に属する。西夏はモンゴルに滅ぼされたが、西夏語と西夏文字は暫く使われていた。今は死言語になっているが、西夏文字による大量の文献が残る。その中で最も多いのは仏典である。他に、中国古典の翻訳や西夏独自の文学も見られる。

1.1. 動詞と接頭辞 1, 2

文法的には、西夏語の基本語順は「主語—目的語—動詞」で、時に格標識が使用される。西夏語の動詞句は複雑で、動作の方向・完了を示す接頭辞、各種の接頭辞、人称接尾辞などが動詞語幹に付加される場合がある。これらの接辞によって、西夏語の動詞句は「接頭辞—動詞語幹—接尾辞」という形にな

¹ 西夏語の概要については西田(2012)を参照。

※本稿の例文では西夏文字、その推定音、語ごとの意味、全訳、そして出典(『大宝積経』、『新集慈孝伝』、『金剛経纂』、『十二国』、『禅源諸緒詮集都序』、『金光明経』、『孫子兵法』、『金獅子章曇間類解』、『類林研究』)を示す。西夏語の推定音については『夏漢字典』(李1997, 2008)に従う。ただし、声調は「1=平声」, 「2=上声」, 「?は声調不明」を、音節初頭の肩文字で示す。文法要素略号は稿末に付す。

謝辞: 本研究は中国人民大学研究生科学研究基金“西夏文《十二国》の語法探析”(21XNH053)の援助を受けている。

荒川慎太郎先生、キリル・ソローニン先生及び査読頂いたお二人の先生にもご指導に深く感謝申し上げます。



っている。荒川(2018: 69)には西夏語動詞句の最大の構造について、詳しい説明がある。しかし、本稿では、それほど複雑な西夏語動詞句には言及しない。西夏語の接頭辞は先行研究で「接頭辞 1 と 2」とされる、二つの組がある。具体的には次のような組み合わせである。

接頭辞 1	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	
	[?] ·a	¹ nja	¹ kji	² wji	² dja	² rjir	
接頭辞 2	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	
	¹ ·jij	² njij	¹ kjij	² wjij	² djij	² rjijr	

対になる接頭辞 1 と 2 の初頭子音²は同じで、接頭辞 1 の主母音は a ないし i で、動作の「方向・完了」³を示す、接頭辞 2 の母音は基本的に jij⁴で「願望・希求」を表す。次に、動作の方向を示す例(01)と願望を示す例(02)を紹介する。グロスではこれらの接頭辞を P1, P2 とする。

例文(01)は、阿難という人物が「座っている所から立ち上がる」、つまり上向きの動作を行う。この時に接頭辞 1 の𠵹[?]·a を使う。

(01)	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹
	² zjo	¹ zjir	¹ ka	[?] ·ja	¹ na	² dzu	² tji	[?] ·a	¹ wor
	時	恵	命	阿	難	座す	所	P1	起きる
	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹
	¹ zj	¹ ·wa	¹ pha	² gjwi	¹ tsier	² ɲwer	² lji	¹ zjij	
	左	肩	半分	着る	右	膝	地	つける	

その時、恵命阿難は座所から起きて、(衣服を)左肩に着て、右膝を地につけた。『大宝積経』第 87 卷⁵

例文(02)は、これは天を祭る者の願望を表す文である。接頭辞 2 の𠵹²njij を使って、「願望」を表す。

(02)	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹
	¹ mə	¹ tji	² mjijr	² gji	² rjir	[?] ·a	² ber	¹ la	² ·u
	天	祭る	者	一人	と	P1	会う	手	中
	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹
	¹ wor	² ·jaa	² gji	¹ lji	² ·o	¹ niəj	[?] ·a	¹ khu	² nji
	鶏	鳴く	一羽	及び	酒	濁る	一	碗	など
	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹	𠵹
	² dja	² zow	¹ kju	² da	² dzju	² ljij	² njij	¹ lja	
	P1	持つ	祈る	曰く	雨	大きい	P2	来る	

一人の、天を祭る者と会って、(天を祭る者の)手の中に鳴く鶏一羽と一碗の濁酒などを持って祈って言う「大雨が降って⁶ほしい」。

『十二国』(Solonin 著・粟沢 2012: 36)

西田(2012: 488-489, 491)によれば、本来接頭辞の機能は方向を示したが、時代が下るとともに、接頭

² 韻母の前に位置する点(・)は声門破裂音(と推定される音)を示す。

³ 例えば、接頭辞𠵹[?]·a は上の方向を示し、𠵹¹nja は下の方向を示す。しかし、それ以外の接頭辞 1 については研究者の見解が一致しないことも多い、代表的な方向の説については西田(2012: 272)参照。

⁴ 本稿で扱う接頭辞𠵹¹·jij の推定音の主母音は、日本の研究者西田や荒川による e と異なるものの、本考察には関係しない。

⁵ 『俄藏』21 卷(2013: 357)から筆者がテキスト化した。

⁶ この「来る(降る)」が下向きの動作であり、同じ初頭子音を持つ接頭辞 1 の方向とも対応している。

辞1が完了態⁷を表すようになり, 接頭辞2が願望を表すようになったという。また, この二組の接頭辞には音声的に対応関係が成り立つことと, その方向を示す機能は12世紀に曖昧になったと指摘された⁸。しかし, 西夏語文献を詳細に読むと, 接頭辞の機能がこれまでの研究では説明できない場合がある。拙稿で考察するのは接頭辞2とされていた要素である。ただし機能が異なると考えられる。

1.2. 接頭辞¹·jjjと接頭辞¹dzjijの組み合わせ

本稿で扱う「接頭辞¹·jjj+接頭辞¹dzjij」の連続を述べる前に, 動詞「接頭辞¹dzjij」について触れておく。西夏語「接頭辞¹dzjij」は, 西夏文献の中で, 一般的に「在る」あるいは「住む」と訳される。『文海雜類』という韻書の字義説明では, 接頭辞¹dzjijは「住とは住む也, 安んじる也, 有る也, 止む也, 移行しないの意味也」⁹ (筆者訳)。西夏文献の中では, この動詞は一般的に接頭辞をつけず, “¹dzjij” (多く住む¹⁰) “¹dzjij” (安住する)などの語彙を構成する。接頭辞をつける場合は, 接頭辞1の「²dja」と接頭辞2の「¹·jjj」が頻出する。

接頭辞1の²djaをつける例文。

(03)	𐵇	𐵈	𐵉	𐵊	□ ¹¹	𐵋	𐵌	𐵍	𐵎	𐵏	𐵐
	¹ mjor	² jjj	² thji	² wji	□	² njjj	¹ khji	¹ pho	¹ ·jjj	² ·io	² ·u
	如	来	DEM	時	□	王	耆	婆	の	苑	内
	<u>𐵇</u>	<u>𐵈</u>	𐵉	𐵊	𐵋	𐵌	𐵍	𐵎	𐵏	𐵐	𐵑
	² dja	¹ dzjij	¹ rjur	¹ jjj	¹ ·ji	¹ ·jjj	¹ thjoo	¹ tsjiir	¹ ne	¹ tshjiij	
	P1	住む	諸	四	衆	に	妙	法	宣べる	説く	

如来は今, 王耆婆苑内に住んでいて, 諸の四衆のために妙法を説いていた。『大宝積經』第85卷¹²

この句は『大宝積經』第85卷に出現する。如来が長者に化けて幻師に言った言葉である。その後長者は神通力で, 幻師に如来が諸四衆に説法する場面を見せた。ここでは, 接頭辞1の²djaが完了態を示して, 「住んでいて, そして, 諸四衆のために妙法を説いていた」と解釈するのが自然である。

その「²dja」+「¹dzjij」の組み合わせについて, 西田(2012)は「¹dzjij」の前では常に「²dja」をつけることで完了態を表すと分析している¹³。しかし, 管見の限り, 「接頭辞¹·jjj+接頭辞¹dzjij」については, これまで考察が十分ではなかったため, 本稿ではこの組み合わせについて考察する。

2. 問題の所在

接頭辞2の¹·jjjは「願望・希求」を表わすと言われているものの, 例外がある。西夏文献の中で, 接頭辞「¹·jjj」+存在動詞「¹dzjij」の形式が見られる。しかし, この場合の接頭辞「¹·jjj」の機能は「願望」でも「方向・完了」でもなく, 内容上「継続」のように考えられる例がある。

(04)	𐵇	𐵈	𐵉	<u>𐵊</u>	<u>𐵋</u>	<u>𐵌</u> ¹⁴	𐵍	𐵎	𐵏	𐵐
	² nji	¹ phjo	¹ tshjaa	¹ ·jjj	¹ dzjij	² zjo	² wa	² sju	¹ gjij	² ye
	2SG	地	上	P2?	住む	時	何	如く	利	益

⁷ 筆者はアスペクト (完了相) と考えるものの, 完了「態」は西田の表現に従う。

⁸ 西田(2012: 491)参照。

⁹ 李(2008: 506)参照。

¹⁰ 聶(2009: 142)参照。

¹¹ 原典で判読できなかった所を□で表記する。

¹² 『俄藏』21卷(2013: 352)から筆者がテキスト化した。

¹³ 西田(2012: 491)参照。

¹⁴ 二重下線は, 「時」そのものの意味を持つ要素。

𪛗	𪛘	𪛙	𪛚	𪛛
² tshja	¹ ioow	² rjir	¹ wjo	² nja
功德		P1	する	SUF

「お前は地上に住していた¹⁵時、どのような利益、功德を為した（のか）？」

『金剛經纂』(荒川 2014: 414)

この句は『金剛經纂』の一部で、劉氏の小さい娘が死んで地獄に入った時、閻魔大王が彼女に尋ねた言葉で「お前は生きている間、どんな功德をしたか」と問いかけている。

西田ほかの研究¹⁶によれば、「𪛛 ¹jij」は接頭辞 2 で、願望の意味を表すと考えられていた。しかし、ここでは、「(地獄から見て)地上に生きていたい?時」という、願望の意味で解釈するのは不自然である。むしろ「継続態」としてとらえると文意が整合する。これ以降、例文のグロスでは P2 とせず、「継続」の用法で使われる同要素に関しては「PC (= continuous)」とする。

『金剛經纂』だけでなく、他の資料においても筆者は同じような例を見つけた。西夏文の中で、例(04)と同様な文が多数ある。異なる資料から 2 例を抜き出して分析する。

(05)	𪛗	𪛘	𪛙	𪛚	𪛛	𪛜	𪛝	𪛞	𪛟	𪛠
	² ŋa	¹ sji	¹ jij	¹ dzjij	² zjo	² khju	¹ pie	² gjuu	¹ bjij	¹ tsə
	1SG	以前	PC	住む	時	遽	伯	玉	挙げる	子
	𪛡	𪛢	𪛣	𪛤	𪛥	𪛦	𪛧	𪛨	𪛩	𪛪
	¹ xia	¹ khwə	¹ mji	² njwi	¹ tja	² ŋa	² njij	¹ jij	² tjij	¹ tsjij
	暇	遠ざける	NEG	できる	TOP	1SG	王	の	法	正
	𪛫	𪛬	𪛭							
	¹ wji	¹ mji	¹ ljii							
	する	NEG	できる							

私が以前（大夫として）あった時、子暇を遠ざけ、遽伯玉を重用し、王の法を正しくすることができなかった¹⁷。

『十二国』(Solonin 著・栗沢 2012: 62)

これも『十二国』の一節で、史螭が死ぬ時息子に言った言葉である。史螭は「自分が以前大夫として現役でいた時、王の法を正しくすることが出来なかった」ことを申し訳ないと思い、死後は「死体を北堂に置く」と息子に命じる。

(06)	𪛗	𪛘	𪛙 ¹⁸	𪛚	𪛛	𪛜	𪛝	𪛞	𪛟	𪛠
	¹ tha	¹ wja	¹ sej	² ljwu	¹ kha	¹ dzjij	² zjo	² rjir	¹ tshjij	² da
	仏	法	華	会	中	住む	時	P1	説く	曰く
	𪛡	𪛢	𪛣	𪛤	𪛥	𪛦	𪛧	𪛨	𪛩	𪛪
	¹ wja	² ljuu	² ljwu	¹ kha	¹ jij	¹ dzjij	² ŋa	² zjo	¹ ŋwə	² jir
	華	巖	会	中	PC	住む	SUF	時	五	百
										声

¹⁵ 荒川 (2014: 414)は注において「𪛛 ¹e:は願望希求の接頭辞とされるが、内容上完了態の接頭辞として解釈せざるを得ない」としているが、それ以上の考察はない。

¹⁶ 西田(2012: 272)など参照。

¹⁷ Solonin (1995: 62)にこの部分のロシア語訳がある。ロシア語原文は потому что там, где янаходилсяранее であり、日本語で訳すと「存在していた」のようになり、動詞の解釈がやや筆者と異なるものの、動作の継続・行為の過去という点では筆者と見解が一致している。なお、栗によるロシア語からの翻訳が存在し、そこでの中国語訳は「以前在那里的時候」(Solonin 2012: 62)である。

¹⁸ 西夏語仏典文献ではこの二つの語「華」「淨い」を連続すると、「法華」の意味を表す。

該	發	穢	絆	循	訛	儻	慨	叢	甌	編
¹ mji	¹ məə	² sju	¹ tha	¹ .jij	² mji	² kiej	¹ mji	² ljij	¹ .io	¹ lwu
聞	盲	如く	仏	の	境	界	NEG	見る	円	融
禪	慨	該	効	鞞	叢					
¹ tsjiir	¹ mji	¹ mji	² .ji	² nji	² ɣwu					
法	NEG	聞く	いう	など	である					

仏は法華会の中に居る時に説いていった、「昔私は華嚴会に在りて、五百声聞は盲人の如く、仏の境地を見ず、円融の法を聞かず」というなどだった。『禪源諸繕詮集都序』(聶・孫 2018: 241)

これは、仏が昔華嚴会の中に住んでいたある時間の間に、五百声聞は盲人のようで、仏の境地を見ず、円融の法を聞かなかった、という文脈である。

例(04)と同じく、例(05)、例(06)の「¹.jij」を願望と解釈すれば、文脈に合わないことは明らかである。これを「継続(~している)」と考えれば、文脈が通じる。

Kepping も ¹.jij + 動詞語幹の表現は持続の意を表しうると論じている¹⁹。同氏の記述ではこの接頭辞の出現する例文として 12 の例を挙げている(例文番号 588-599)。これらの中で、当該の連続が確認できる例は 4 例である²⁰。以下に Kepping のロシア語を和訳したものを再掲する。

(07)	繼	穢	糞	穢	糞	穢	穢	穢	穢
	¹ sjij	² sju	¹ kha	² wji	¹ wee	¹ phjo	¹ tshjaa	¹ .jij	¹ .dzjij
	今	畜	中	P1	生まれる	地	上	PC	生きる

今(我らは)畜生の中に生まれて²¹、地上に生きている。

『金光明經』(Kepping 1985: 186, 例 590)

(08)	穢	穢	穢	穢 ²²	穢	穢	穢	穢
	¹ nji	² ya	¹ .jar	² .jaar	¹ thja	² tji	¹ .jij	¹ .dzjij
	二	十	八	日	DEM	所	PC	住む

(趙奢は、城を堅固にして) その場所に二十八日間滞在した。

『孫子兵法』(Kepping 1985: 186, 例 595)

(09)	穢	穢	穢	循	穢	穢	穢
	¹ siə	¹ tshja	² gji	¹ .jij	² wji	¹ thji	¹ thja
	詩	怒	妻	を	P1	出る	DEM
	穢	穢	穢	穢	穢	穢	穢
	² gji	¹ nji	¹ .dzjwi	¹ .o	² do	¹ .jij	¹ .dzjij
	妻	家	隣	主	処	PC	住む

詩は怒って、妻を追い出した、(彼の)²³妻は隣の家に住んでいた。

『新集慈孝伝』(Kepping 1985: 187, 例 596)

¹⁹ Kepping (1985: 186)参照。

²⁰ Kepping の例には存在動詞以外の動詞もあるが、「継続」の意味があるか証明の難しいものがある。

²¹ Kepping のロシア語原文を直訳すると「牛の形に生まれて」。

²² 下点線は「時を表す表現」などを表す。以下も同じ。

²³ Kepping のロシア語原文には「彼の」がない。

(10)	𪛗	𪛘	𪛙	𪛚	𪛛	𪛜	𪛝
	¹ ʃwi	² ya	¹ gji	² we	¹ wjo	¹ ʃij	¹ dʒij
	年	十	九	なる	寡	PC	住む

十九歳から、(あの女は)²⁴寡婦の生活をしていた。 『類林』 (Kepping 1985: 187, 例 599)

Kepping (1985: 186)は「これらの接頭辞が動詞と組み合わせられる時、現在であれ、過去であれ、動作の継続を表す」²⁵と述べている。筆者は Kepping のこの意見に同意する。ただし、Kepping の指摘は先見の明があったものの、動作の継続性について客観的な説明とともに検討されることはなかった。しかし、後述するように筆者の調査では、「𪛜 ¹ʃij」+「𪛝 ¹dʒij」のみ時間表現を伴い、動作の継続性を明確にできることが分かった。従って本稿では、「𪛜 ¹ʃij」+「𪛝 ¹dʒij」に限定して論じることとする。

3. 「継続」用法の例と特徴

3.1. 「時間」表現を伴う例文から見た接頭辞と動詞の連続

筆者は、先行研究に見られない観点として、これらの連続と共起する「時間の表現」に着目し、そのような例文を収集した。以下、例文(11)-(13)は、「接頭辞と動詞の連続」に加えて、具体的な長さのわかる「時間」の表現が共起している。例文の文字下の点(…)は「時間の表現」である。例文の後に、簡単に文脈を説明する。

(11)	𪛗	𪛘	𪛙	𪛚	𪛛	𪛜	𪛝	𪛞	𪛟	𪛠	𪛡
	¹ ʃji	¹ ku	² ji	¹ tja	¹ zja	¹ so	¹ kjiw	² zur	¹ bjū	² dji	¹ ɣju
	前	後	曰く	TOP	間	三	年	救	による	P3 ²⁶	請う
	𪛗	𪛘	𪛙	𪛚	𪛛	𪛜	𪛝	𪛞	𪛟	𪛠	𪛡
	² ku	² wə	¹ ʃij	¹ dʒij	¹ nioow	² rjir	² ji	¹ ŋər	² ya	² wji	¹ lhjwo
	内	城	PC	住む	後 ²⁷	更に	山	に		P1	帰る

前後(十年間)といえ、(その)間、三年は救命によって請われて、内城に住んでいて、その後さらに山に帰った。 『禅源諸繕詮集都序』 (聶・孫 2018: 45)

これは『禅源諸繕詮集都序』の一節で、宗密の言葉である。宗密はここで自分の十年の経歴を語った。その十年の間三年ぐらい内城で住んでいた、という文脈である。この例は時間+「𪛜𪛝」の形式で、「内城で三年間住んでいた」という意味を表す。

(12)	𪛛	𪛜	𪛝	𪛞	𪛟	𪛠	𪛡	𪛢	𪛣	𪛤	
	² ljij	² gji	¹ kha	¹ tshjij	¹ dzo	¹ tji	² gji	¹ kji	¹ mjiij	¹ tja	² jir
	『大疏』	中	説く	例えば	一	夜	P1	夢見る	TOP	百	
	𪛛	𪛜	𪛝	𪛞	𪛟	𪛠	𪛡	𪛢	𪛣	𪛤	
	¹ kjiw	¹ ʃij	¹ dʒij	² rjir	² lew	² swu	² ji				
	年	PC	住む	と	類似	いう					

『大疏』の中で説くには「例えば一夜夢を見たというのは、百年生きていたのと同じである」という。

『金獅子章曇間類解』 (聶・孫 2018: 635)

この文では、時間を表す「百年」の後、直接「𪛜𪛝」をつけて、仮定ではあるが、百年生き続けるという意味を表している。

²⁴ 西夏文にないが、Kepping が補った。

²⁵ Kepping のロシア語から日本語に訳した。

²⁶ 接頭辞「𪛠²dji」については、接頭辞 1 とするか認めないかなど研究者によって意見が違ふ。ここでは荒川(2020: 4)に従い P3 と表記する。内容上「完了態」を表すものとして翻訳した。

²⁷ 二音節からなる単語。

(13)	𐰇	𐰆	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇
	¹ su	² .u	² dji	¹ kjwiir	¹ kha	² ya	¹ gji	¹ kjiw	¹ .jij	¹ .dzjij
	蘇	武	匈	奴	中	十	九	年	PC	住む

蘇武は匈奴に十九年住んでいた.

『類林研究』(史·黄·聶 1993: 45)

これも時間詞の後に直接「𐰇𐰇」をつけて, 蘇武の十九年間の滞在を述べている.

例文(11)—(13)のように, 三年であれ, 百年であれ, 十九年であれ, 「住む, 生きる」という動作が継続している. これらの時間表現は, 具体的な長さ(期間)が明示されており, 当該の表現が, 動作の継続を表していることを傍証する.

すると, これまでの例文もやはり「継続」を表現するものと解釈するならば, 文脈が通じる. ここで, もう一度例文(04)及び構成が近い例文を挙げる.

(04)	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇
	² nji	¹ phjo	¹ tshjaa	¹ .jij	¹ .dzjij	² zjo	² wa	² sju	¹ gij	² ye
	2SG	地	上	PC	住む	時	何	如く	利	益
	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇					
	² tshja	¹ .ioow	² tjir	¹ wjo	² nja					
		功德	P1	する	SUF					

「お前は地上に住していた時, どのような利益, 功德を為した(のか)?」

『金剛經纂』(荒川 2014: 414)

(14)	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇
≡(05)	¹ .jij	¹ kow	² njij	¹ tsə	² lej	² ljij	² bji	¹ .jij	¹ .dzjij
		靈公王		色	変える	大	臣	PC	住む
	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇
	² zjo	² .ju	² tshja	² dzi	¹ .jij	¹ .bjij	² .sjij	¹ .zjiir	¹ .jij
	時	常	賢い	人	を	挙げる	智	少	を
	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇
	¹ khwa	² thji	² wji	² dja	² .sji	² .sji	¹ tsji	¹ thja	² da
	遠ざける	DEM	時	P1	死ぬ	NOM	また	DEM	話
	𐰇	𐰇							
	¹ .mji	² .mji							
	NEG	忘れる							

靈公王は(顔)色を変えて「大臣は生きていた時は, 常に賢人を挙げ, 小人を遠ざけ, 死ぬときさえ, その言葉(好意)を忘れない……」と述べた. 『十二国』(Solonin 著. 粟沢2012: 62)

例(04)も(14)も具体的な時間の長さはわからないが, 継続表現で解釈して文意が理解できる. 一方, 荒川(2014)では, 『金剛經纂』という資料中に, 具体的な「時間の長さ」を伴う例文が確認できる.

(15)	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇
	¹ .mji	¹ tsji	² ku	² da	¹ phjo	¹ tshjaa	¹ .jij	¹ .dzjij	² na	² zjo
		少女	答える	曰く	地	上	PC	住む	SUF	時
	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇	𐰇
	¹ .sjwi	¹ .sja	¹ .kjiw	² we	² ya	¹ .sjwo	¹ .kię	² .dzja	² pa	² .rja
	年	七	歳	なる	に	生じる	金	剛	般	若

𐄂	𐄃	𐄄	𐄅	𐄆	𐄇	𐄈	𐄉	𐄊	𐄋
² lwar	² ljejr	² nji	² newr	¹ yiwej	¹ jij	² twę	² bja	² mji	² dji
經	典	日	数 ²⁸	執る	持つ	続く	断る	NEG	嘗て

少女は答えて言う「(私は)地上に住していた時、七歳になってより²⁹、『金剛般若經典』を日々持ち続けていて、それをやらないことがなかった。」
『金剛經纂』(荒川 2014: 414)

ここでは「少女が七歳になってから(ずっと)」という表現があるので、動作の継続ということが明瞭である。

3.2. 接頭辞𐄇¹jijの再解釈

「𐄇¹jij」+「𐄃¹dzjij」における「𐄇¹jij」が接頭辞2ではない、つまり「同じ文字で同じ音であるのに異なる文法機能を担う」ということはありえる。例えば、𐄃²aである、この要素は「接頭辞1」として機能するほか、接頭辞となって「疑問文」を作ったり、名詞に前置され「一つの～」を表わしたりする³⁰。また、「𐄇¹jij」は𐄇¹ (漢訳「盈能」とされる)という官職名を表すことがあり³¹、ここでは、この要素は漢語官職名などを「音写」していると考えられる。ゆえに、接頭辞2と異なる、ただし文法機能のある語を同じ字で書き表した可能性はあると考えられる。

この要素にはいくつかの別の可能性を考える必要がある。

1)「継続」を表す、まれな接頭辞で、たまたま音が P2 (𐄇¹jij)と同じだったので同じ文字で書かれたということ。

2)先行研究に知られていない、2音節動詞「住んでいる」の前部要素で、適当な西夏文字が無かったので𐄇¹jijが「当て字」として代用されたということ。

などが考えられる。しかし、本稿では1, 2)について明らかにすることが出来なかった。

4. 結論と今後の課題

4.1. 本考察の結論

本考察によって、次のことが結論付けられる。

- ・当該の「接頭辞と動詞の連続」は、動作の「継続」を表す。「継続時間」の表現との共起から例文を解釈してもその機能は確認できる。

- ・この接頭辞は、形式は「願望・希求」の「接頭辞2」と呼ばれる接辞群の一つであるものの、まったくそのような機能は確認できない。

- ・この接頭辞は「継続」に関わるか、「住んでいる」という2音節語特有の表現に現れる要素であり、たまたま発音の同じ接頭辞か、1つの形態素に対してこの文字が使用されているに過ぎない。

4.2. 問題点と今後の課題

本研究では、西夏語資料の内容的な制約もあり、「過去の動作」に関する例文が多くを占めた。今後は「現在の動作」の継続の例文も収集に努めたい。

更に、「𐄇¹𐄃¹」の構造・意味が明確になれば、西夏語「𐄃」の研究にも役に立つと考えられる。西夏語では「時間」を表す語がいくつかある。文献の中で、よくみられるのは𐄃¹dzjij, 𐄃²zjo, 𐄃¹zjijで、孫(2012)はこの三つの語について検討し、同氏の論文で𐄃¹dzjijは「今時、その時点で」、𐄃²zjoは「過去の時」を表す、𐄃¹zjijは「～する時」と指摘された³²。しかし、「時間点」(瞬間的なもの)と「時間帯」(暫

²⁸ 𐄃¹𐄃¹の連続で、「日々」を意味する。

²⁹ 𐄃¹は動詞「生じる、起こる」であるが、前接する格標識と合わせて、「～から」を意味する。

³⁰ 李(2008: 712)による。

³¹ 韓(2021: 398)による。

³² 孫(2012: 45)による。

くのもの)を示すものがあるかどうかには触れていない。筆者が調査した資料では、「𐽄𐽅𐽆」はよく見られる組み合わせである。筆者の調査によれば、「𐽄𐽅」の後には𐽆しか後続しない。「𐽄𐽅」が継続の意味を表すのであれば、𐽆²zjo は「時間帯」を示すはずである。この𐽆²zjo の検討は今後の課題である。

文法要素略号

DEM: 指示代名詞, NEG: 否定辞, NOM: 名詞化接辞, P1: 接頭辞1, P2: 接頭辞2, PC: 接頭辞(継続), SG: 単数, SUF: 人称接尾辞, TOP: 主題標識

参考文献

- 荒川慎太郎. 2014. 「西夏文『金剛經典纂』録文訳注」『西夏文金剛經の研究』京都: 松香堂: 409-443.
- _____. 2018. 「西夏語の双数接尾辞について」林徹ほか編著『ユーラシア諸言語の多様性と動態—20号記念号』神戸: ユーラシア言語研究コンソーシアム: 69-83.
- _____. 2020. 「西夏文『天盛律令』中の西夏語動詞前綴」『西夏研究』2020年1期: 3-14.
- 韓小忙. 2021. 『西夏文詞典』北京: 中国社会科学出版社.
- Kepping, Ksenia B. 1985. *Тангутский язык : морфология* (『西夏語—形態論』) Москва (Moscow): 186-187.
- 李範文(編). 1997. 『夏漢字典』北京: 中国社会科学出版社 (増補修正本 2008) .
- 西田龍雄. 2012. 「西夏語」『西夏語研究新論』京都: 松香堂: 465-512 {初出は西田 1989 「西夏語」 亀井孝ほか編『言語学大辞典』第 2 卷, 東京: 三省堂: 408-429}.
- 聶鴻音. 2009. 『西夏文《新集慈孝伝》研究』銀川: 寧夏人民出版社.
- 聶鴻音・孫伯君. 2018. 『西夏訳華嚴宗著作研究』銀川: 寧夏人民出版社; 北京: 中華書局.
- 史金波・黄振華・聶鴻音. 1993. 『類林研究』銀川: 寧夏人民出版社.
- Solonin, Kirill Ju. 1995. *Двенадцать царств : факсимиле рукописи, издание текста, исследование, перевод с тангутского, комментарий, таблицы и указатель К. Ю. Солонина* (『十二国: 写本複製, 校正, 研究, 翻訳, 注釈, 表, 索引が Solonin Kirill による』). Санкт-петербург: Центр "Петербургское востоковедение".
- Solonin, Kirill Ju (索羅宁)著・粟瑞雪訳. 2012. 『十二国』銀川: 寧夏人民出版社.
- 孫伯君. 2012. 「西夏語時間名詞簡論」『西夏研究』2012 年 3 期: 45-49.

図録及び略称

『俄藏』21 卷: 『俄藏黑水城文献』21 卷, 主編: 史金波(中), 魏同賢(中), E.И.克恰諾夫(ロシア) 2013, 上海: 上海古籍出版社.

執筆者連絡先: 2019000407@ruc.edu.cn

原稿受理: 2021 年 12 月 9 日